第 58 期 事業計画

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

長い間の懸案でありました富士病院の耐震化につきましては、22 年度において、前年の政権交代による方針の変更から県全体の補助金予算額削減となり、近代化事業として手続きをしてまいりました。幸いなことに、年度中途において、急遽、耐震化事業の対象施設の認定を受けることが出来、22 年度中の着工という厳しい条件の中、請負業者の選定を行い、平成 23 年 3 月 14 日には起工式・工事着手まで進めることができました。23 年度から第 1 期工事の本格的施工を行い、26 年 1 月末までの長期工事が開始となります。大規模地震など大災害時に救護病院として重要な役割を果たして多くの人命救助に当たることは当法人の 3 病院が持つ重要な役割で、その中心を富士病院がしっかり果たすことが出来る建物になります。

医療を取り巻く環境は、年を経るごとに厳しさを増してまいりました。長期にわたる医療費抑制政策や医師・看護師等育成政策の遅れの中、病院経営の危機的状況は、打開策が追い付かないまでに追い込まれてまいりました。

マスメディアでは、医師の確保等の問題から病院の存続の危機や崩壊、あるいは、故意か、過失かによる不正請求問題が大きく取り上げられております。

また、受診者側の意識に「当然だ」とか「当たり前だ」とか「それが義務だ」とかの権利者意識が強く、言葉や態度が粗暴になり、医療との対立を生む場面も出ておりますし、果ては訴訟へと問題が深刻化する場合もあります。

このように積年の深刻な状況から、近年は、ハイリスクの患者の受け入れを断られ、受け入れ先を求めて何箇所も探し回ることになり、手遅れとなり不幸な結果となってしまったという事例が何例か報道されました。

不安定を極めた前政権から新政権に交代し、診療報酬の見直しが示されましたが、その効果はまだ未知数であり、また、人材の面では、医療に従事する者の大都市願望は強く、地方での人材確保は、経費の増大化と表裏一体の関係ともなり、病院経営の中で大きな比重を占めております。

新政権自体も、加熱した昨年の衆議院議員選挙当時から見ると、時間が経過するごとにあいまいさが目立ち、歯切れの悪い政権運営がされており、社会不安は増すばかりです。

当法人は、その成り立ちから、地域に根ざした公共的な法人としての役割を十分に認識し、地域住民のための医療体制を整備し、地域の医療保健に貢献しなければとの使命感から、厳しい現状とのはざ間で葛藤しながらも安定運営に意を注いでまいりたいと思います。

このような状況下において、当法人での舵取りは困難を極めておりますが、病院事業におきましては、富士病院において、平成22年9月機能評価の認定を受け、質の高い医療を効率的に提供し、サービスの向上に努めていきます。

58期におきましては、平均入院患者数118名を何としても確保し、心臓血管手術も再開し、平均日当点は6300点を目指します。7対1看護体制は死守します。

富士小山病院につきましては、10対1の手厚い看護を継続し、介護病棟におきましては、入所者に対して心からのサポートを心がけるとともに、介護療養型ベッドにつきましては、介護保険制度の動向に注意を払い、対応してまいります。

東部病院につきましては、透析室がフル稼働し、運営は順調に見えますが、安心することなく、透析と付随する医療、更に特徴ある診療を広げていきます。さらに基本の外来・入院診療の充実の面におきましては、良質の医療サービス提供を心がけ、多くの患者様が利用していただけるよう努力します。また、慢性創傷ケアチームなどの特色の明確化を図るとともに、経費を見直して無駄の削減をするなど、経営の健全化をさらに推し進めてまいります。

訪問看護ステーションにつきましては、最近利用者からリハビリ関係の要望を強く感じており、STの訪問指導も急増しました。今期はこの要望に答えるため、PTによる訪問看護を強化していきます。もちろん今までのサービスを更に深め、利用者に満足してもらえるように展開してまいります。

グループホームにつきましては、入居高齢者の身体的体力の低下や、認知症の重度化も進んでいる中で、さまざまな事態に対して、スタッフの対応能力の向上を図るとともに、日常生活援助・介護能力を上げております。

58期の事業計画にあたり、23年度も本体である富士病院は運営面では大変厳しく、入院基本が7対1となり、多少改善したものの公的役割を抱え、不採算医療を多く担当する富士病院は安定した経営は努力して、辛抱して、耐え抜いた結果、初めて僅かな黒字が見えてきます。しかしそれらを、医師をはじめスタッフに強要し続けることはいずれ崩壊に繋がります。地域の医療の存続を地域皆で考える時期に来ています。

富士小山病院・東部病院の特化した診療部門の充実、訪問看護事業・在宅事業の拡大、グループホームごてんば等の施設とのかかわりの充実などにより、御殿場・小山町の地域医療・介護を安定的に提供することに尽力します。また診療報酬に左右されない事業の育成として、引き続き健診事業にも力を注

いでまいります。

介護部門に関しては、平成23年度末の療養病棟再編にむけて、小山町を始めとした地域の要望を鑑みながら、グループ内の病院毎の機能分化、長期療養を主眼とした施設作りを検討します。

3病院の機能分化と連携の確立が御殿場市および小山町の医療・福祉・保健の将来を担っており、またその完成により有隣厚生会の存在意義がさらに向上します。このため各病院の医師をはじめスタッフ同士がお互いの医療内容を理解し、協力し合えるようなシステムを構築します。

また昨年足柄地区を無医師地区にしないよう小山町長からの熱望にこたえて、常勤内科医を派遣した件については引き続き、同目的で継続し、4月からは木曜の午後以外は連日体制の稼動になります。(週2日整形外科の医師も派遣)

また御殿場看護学校の運営については、引き続きその中心的役割を果たして参ります。

さらに医師会、行政、他の医療機関・施設と徹底した連携を図り、住民がスムーズに医療機関・施設を利用できる体制づくりに尽力します。特に現在県で押し進めている地域医療再生事業は2次救急施設として重要な役割を担っており、積極的に協力していきます。そして保健事業については、行政との連携・交流のなかから必要に応じた対応を行い、特定健診・指導事業にも積極的に関わっていきます。

各事業について

1. 生活困窮者に対する医療援助

生活困窮者・心身障害者・老人等の患者に対しては、治療費など一部負担金の減額及び免除を例年通り実施します。

2. 教育文化活動

病院、介護事業を運営する上で重要な担い手である看護師、その他のコメディカルスタッフの教育、育成に次年度も傾注します。

看護学生教育、育成事業

地域医療に貢献できる看護師を養成するため看護学生に対し奨学金を支給しており、次年度も引き続き実施します。22年度も御殿場看護学校生に対し、奨学生を10名程度の採用を目標に計画し、その育成に注力します。

(3年生9名、2年生12名、1年生4名を加え合計25名 3月17日現在)

御殿場看護学校の運営

御殿場看護学校の運営を御殿場市医師会病院部会（9病院）で行います。当院はその中心としての役割を持ち、教員等の採用なども関わり、地域に貢献する看護師に育成すべく、各病院との協力体制堅持し運営します。又、当院から非常勤講師として、法人全体で20名を派遣します。

御殿場看護学校の実習受入と指導者養成

御殿場看護学校の実習病院として看護師養成に努めます。又、現在、実習指導者は、富士病院22名、富士小山病院8名、東部病院6名、訪問看護ステーション2名計38名在籍していますが、指導の充実の為、今年度も指導者講習会に富士病院3名、富士小山病院2名、東部病院1名参加させる予定です。

医療従事者の育成

各種専門学校と連携して、薬剤師・理学療養士・検査技師・社会福祉士・栄養士・看護教員・医療秘書の実習を受け入れて、医療従事者を育成し地域医療の質の向上に努めます。

講師派遣

東部看護学校に講師として医師を1名派遣(阿部医師)。東海大非常勤講師として、医師2名(園田医師・阿部医師)、臨床工学技師(高橋)を派遣します。

「1日ナース体験学習」の受入

高校生を対象に、県の事業である「1日ナース体験学習」を受け入れ、将来の看護師育成につなげます。(富士病院10名)(富士小山病院2名)

学術講演会

学術講演会を5回計画し、御殿場小山地域の病医院等に参加を呼びかけます。

高校生のインターンシップ

高校生のインターンシップに協力し、5人から10人の生徒を年2回受け入れる体験学習を計画します。

各種学会の発表

各種学会の発表を医学の発展のため、積極的に行います。

3. 富士病院の事業計画

一般病院として良質な医療サービス向上を目指すことは無論、今期の重点項目として「循環器病センター」、「消化器病センター」の2つのセンター構想を中期目標として明確にして取組みます。

循環器科については、4月より浜松医科大学第一外科から、2名の心臓血管外科専門医の先生が派遣され、心臓バイパス術等を再開します。循環器内科の先生の増員を計画、体制の更なる強化を図り、地域循環器センターとしての機能を充実させます。

消化器科については内科の医師が見つからず、緊急の受入に苦慮しております。数年前、消化器内科医が退職後、消化器外科に負担がかかり、それでも踏ん張ってきましたが、現在の体制には限界があります。この地域はいつでも緊急内視鏡検査・治療・手術・入院が可能な施設は無く、この分野の充実を当院がやらなければならないと強く考えております。58期前半には常勤の消化器内科医師を確保して、体制立て直しを急ぎたいと考えております。もちろん2つの重点項目以外にも急性期疾患は多くあり、受け入れる救急体制の整備もあわせて進めていきます。そのためには一層の検査機能の充実を図り、必要な医療情報の精度を高め、安全確実な医療の提供を目指します。そのことが2次救急施設として、3次救急の負担を減らし、1次施設からの救急の紹介受入をスムーズに行なうことにつながります。また昨年より実施の広域救急（沼津の2次救急）の協力も継続していきます。

内科全般は高齢者、慢性疾患が増加、病態の重症化も激しく、救急・MCと救急受入要請も増加しております。しかし対応する医師の確保が難しく、常勤医師の採用で解決しますがそれが難しい今、初診外来の負担を非常勤の採用でカバーします。

小児救急については、東海大学からの派遣で常勤医師2名、非常勤医師が6名（非常勤は週1回半日程度）の体制で、夜間・休日の御殿場市救急センターからの救急入院の受入は、今後も断らず、さらに当院に通院中の慢性疾患患者・救急の重症患者は診るように体制の強化を図っております。地域に入院施設は当院しかない現状、懸命に受け入れてあげたい思いで踏ん張ってまいります。

腎臓内科は透析の導入・紹介が多く、一期工事完了後、当初から新透析室を20台近く使用しないと患者受入ができない状況になることが予想されます。糖尿病も増加しておりますが、夜間休日など当直医で対応できないケースは緊急連絡で対応する体制を組んでおります。小児科については救急センターからの救急入院の受入は今後も断らず地域の小児医療の中核をなしていきます。また当院に通院中の慢性疾患患者・救急の重症患者は診るように体制の強化を図っております。

外科は医師1名増員でき、緊急手術をはじめ専門的分野の診療対応も少し改善できます。消化器内科の負担を減らしながら、地域医療へ貢献していきます。

整形外科については昨年からの足柄上病院の派遣（週3日）は継続し、

順天堂静岡病院からの派遣も継続、常勤 1 名の退職の穴埋めは出来ておりませんが常勤での穴埋めは難しく、非常勤で補充していく方針です。

眼科においては、白内障手術は平均的にも月 50 件弱あり、紹介患者が多く地域でも評判を得ております。

泌尿器かについては、WOC ナースの退職により、失禁指導などに影響は残りますが、唯一の入院施設として重要です。

呼吸器については、重篤なケースも多く、地域に呼吸器科医師が不足しており、頼られる存在として益々重要になっております。

その他の科も、地域になくってはならない科として信頼を獲得するよう勤めます。

病院の増改築事業につきましては、3 か年の計画で実施してまいります。今期におきましては、E 棟西側に 3 階建て延べ床面積 305.52 坪、E 棟北に 124.02 坪、E 棟東に 2 階建て延べ床面積 169.4 坪の増築計画を実施することとし、今期分（全体工事の 24%）予算として建物関係に 4 億 5 千万円を計画しました。全体計画の案につきましては、図面をご覧ください。

健診事業につきましては、予防医学の普及に努め、各企業からの要請も多く、順調に増加しております。書く企業とも、予防指導も含め、病気になったときの検査治療を当病院に期待することが多く、今期は特に診療につなげる健診の工夫を検討していきます。

人材の育成は、最重要課題であります。御殿場看護学校の運営も順調に進み、平成 23 年 4 月には 7 名の卒業生を受け入れます。また他の学校から 2 名の卒業生を受け入れ、計 9 名が新人として入職する予定であります。この育成こそが、今後における病院運営の重要な要であり、目標実現に欠かせないものであります。

患者に対して医療内容を満足できるものにすることが最大のサービスと考え、必要な医療機器を整備し、優秀な医師と看護師などのコメディカルスタッフがチームとなって診療する体制づくりを目指します。

また診療内容の十分な説明を心がけ、カルテに基づいた請求を徹底させ、常に患者中心に行動し、親切な働きかけを徹底させ、安心と信頼を獲得するよう努めます。

さらに、行政、医師会との連携を重視し、地域の基幹病院として、急性期疾患に十分対応できる病院を目指します。

以上のことにより、平成 23 年度の入院患者数目標を 1 1 8 人（日当点 6 , 3 0 0 点）。外来目標を、490 人（日当点 1 , 0 7 1 点）とし、4 , 9 0 0 万円の当期利益を目標にしました。

4 . 富士小山病院の事業計画

現在は 2011 年度末とされている介護療養病床の廃止は、厚労省により、すべてを転換するのは困難と判断され、期限を 6 年間延長し、来年 4 月以降の介護療養病床の新設を認めなくする一方、この時点で介護療養型医療施設として指定されている施設は 17 年度末までは運営できるようにする等を盛り込んだ介護保険法等の改正案を今国会に提出することとなった。来年度末の廃止はなくなる予定だが、2017 年度末までの転換は免れないが、この時期は介護報酬と診療報酬の同時改定のタイミングにて、一般病床、医療療養病床、介護療養病床の慢性期医療体制の整備が行われる話も聞こえてきます。今後動向を注視し情報を精査しながら、方向性を模索していきます。

今年度の事業計画として、皮膚科専門医と循環器内科専門医の非常勤医を向かえ、診療をスタートします。皮膚科は、診療数が増え患者の需要が見込まれます。また、循環器は、専門の患者需要が増えることにより、富士病院への紹介も増えることが予想されます。療養においては、近隣の施設開所等により短期入所供給量の増加により需要は減少しますので、短期入所用 2 床を 1 床にし、長期入所者を基準に運営していく予定となります。また、グループの慢性期病床として全体の貢献をしていきたいと考えています。

職員の育成のため、6 月の日本慢性期医療学会での研究発表を始め、各種学会での研究発表の参加を行います。また、全ての職員のキャリアアップに努めていきますが、国の介護職員の処遇改善に基づき、特に介護職員の介護福祉士への育成に力を入れていきます。今後の医療介護の連携においては、介護の質の向上、介護福祉士の施設基準の上でも重要となっていくと考えられます。そして、人のモラルが問われる中、それに対応できるよう、院内暴力やセクシャルハラスメント、個人情報保護の研修を行っていきます。医療安全委員会、院内感染委員会、防災対策委員会、教育委員会を中心とした院内研修会及び各種マニュアルの改定を行い院内の質の向上も継続して行っていきます。

地域の広報活動として、定期事業となる健康フェスタふじおやまを 6 月 4 日に予定しております。また、それ以外にも地域防災活動への派遣、学校への出前授業、各種企業団体の派遣や研修サポートを予定しております。

今期の数値目標は、一般病棟一日平均入院患者数 25 人、介護病棟一日平均入院患者数 59 人、一日平均外来患者数 174 名とし、前期の予算より売上 1200 万増を目指します。費用としては、各経費のコストリダクションは継続して推進しますが、人員配置の人員費、医療安全のための機械保守、眼科の新規機器の導入による賃貸料等により費用の増加となります。上記を踏まえ、当期利益 3,966 万円を最終目標とします。

5 . 東部病院の事業計画

透析患者の導入年齢の高齢化や長期透析治療患者の増加により、透析患者の高

齡化が深刻となってきました。

高齢化により通院困難な患者や、患者の病態の変化・多様化により、介護施設での対応が困難な透析患者が増加するなか、透析実施施設は良質な透析医療を長期にわたって提供する必要があります。

東部病院は、富士病院・富士小山病院のみならず、望星グループを含めての連携をふかめ、医療福祉複合体としての機能を強化し、スタッフへの教育研修を充実させ、質の向上を図ることによって、透析導入や合併症患者の受入を積極的におこない、透析患者の高齡化に対応してまいります。

さらに、厚生労働大臣認定施設としてヒト幹細胞臨床研究の推進ならびに、糖尿病患者指導の強化、アフェレーシス治療等の高度透析関連医療施設としての東部病院の特色を明確にし、その機能特化を推し進めてまいります。

また昨年度、協会健保の『生活習慣病予防健診実施医療機関』に認定されことによって、一般企業の認知も進みつつありますが、本年は更に産業医活動・人間ドック・検診等について企業への勧奨をおしすすめてまいります。

職員には、個人活動がセクション・部署・病院全体へと、共通の目標に向かって行動するチームワークを目標管理制度(BSC)によって徹底し、院内・院外研修会の参加率の引き上げや医療安全管理の徹底のためヒヤリ・ハット報告件数10%増を目標値にし、危険予知訓練(KYT)の実施、RCA分析による対策強化を図り、職員の成長を図ってまいります。

なお、本年度予算につきましては、従来からおこなっております常勤透析管理医師の増員活動を強化しつつも、経営の安全性の意味合いから、敢えて現員医師での予算といたします。

数値目標として、透析部門はより効率化を図り、月平均取扱い件数を外来50件増の1500件に入院は400件とし、透析外の一般診療は平均診療単価の引き上げを図ってまいります。

6. 訪問看護ステーションごてんばの事業計画

前年同様、利用者は110数名で、人数的にはあまり変化がありませんが、訪問件数は、550前後の件数があり、年々増加傾向にあります。重症社の訪問回数増加によるもので、スタッフの負担も増える結果となっております。

スタッフの増員も考えてはおりますが、訪問看護を希望する看護師は少なく、話があっても採用にはなかなか結びつかないのが現状です。

また、重症や医療処置のある方が多くなっているため、亡くなられる方や入退院の方が多くなり、調整も難しくなっています。

介護サービスの1事業所として訪問看護ステーションごてんばが地域の方に信頼され、在宅診療を支えていけるように、日々向上を心がけ、また、医療機関や介護施設との連携を密にしていきます。

訪問看護推進事業として、東部管内のいくつかの訪問看護ステーションが連携して、訪問看護の電話相談をしていますので、当事業所も引き続きこれに参加して、地域とのつながりを密にしていきます。

7. グループホームごてんばの事業計画

国家資格取得の奨励と業績の増加を掲げていますが、仕事の内容がハードであるため、職員の増員や定着は難しいものがあり、資質向上は望み難いものがあります。

23年度は2名の職員が、介護福祉士の資格取得のため、研鑽を重ねようと強い意志を持って業務にあたっており、後押しをしてまいりたいと思います。

また、介護者と入居者との問題がいろいろと報道されグループホームのあり方が問われております。

新年度の目標として、「してはいけないこと しなくてははいけないこと」を引き続き掲げ、より良い施設形成を目指します。

年間を通して研修に参加し、介護者としてのキャリアアップを図ります。また、介護者としてのリスク、入居者のリスクなどを考えていながら、入居者が私たち介護者と一緒に楽しく生活できるよう、援助をしていきたいと考えています。

また、入居者の皆さんには、24時間テレビチャリティー委員会から寄贈された福祉車両を十分に活用し、快適な生活の広がりを図ってまいります。

火災等の危機管理としては、近所からの支援のあり方、消防署や警備会社との通報連絡のあり方などを整備していくことで、入居者や入居者の家族に対し、職員も安心して生活援助が出来ていけると考えています。